

校長室だより

第8号

柏原市立柏原中学校
校長 石田 智
令和7年10月7日（火）発行

文化祭特集号

体育祭の興奮も冷めやらない先週の10月3日（金）、本年度の文化祭が行われました。生徒たちは夏休み前より練習と準備を進めてきたことの集大成として、体育祭に勝るとも劣らない活躍を見せてくれたように思います。今回はその様子をお伝えいたします。

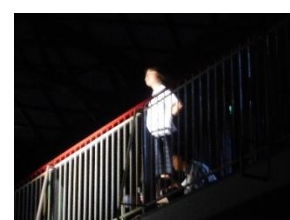
〇開会～くすのき学級

まず生徒会より今回のスローガン「熱笑」についての説明と開会の挨拶、諸注意等があり、いよいよという期待が高まってきたところで、トップバッターであるくすのき学級の発表「泣いた赤鬼」が始まりました。誰もが幼い頃に読んだことのある作品だと思いますが、赤鬼の心の葛藤を丁寧に描いており、観客は食い入るようにスライドに見入っていました。特に最後の「鬼と子供や村人が仲良く暮らす方法はなかったのだろうか」という問いかけは深く胸に刺さりました。誰もが嫌な思いをせず安心して過ごせるというのは学校がめざしていることでもあり、我々にそれを考えるためのきっかけを与えてくれた発表だったように思います。



〇1年生

学年発表の最初は1年生でした。クイーンの名曲に乗ってリズムカルに舞台上上がるという演出がとても斬新でした。そこから未来へのメッセージを込めた群読と合唱「永遠のキャンパス」が始まり、間に自分の思いをギャラリーから叫ぶ「未成年の主張」を挟んで、最後は「ウルトラソウル」をダンスも交えながら歌い切りました。本当にはち切れんばかりの元気さが溢れるような歌声で、81期生が持つエネルギーの凄さを実感させてくれるような発表でした。まだまだ白いキャンパスに柏中の新しい歴史をこれからどんどん描いていってほしいと思います。



〇2年生

続くは2年生の発表でした。淡々とした発表紹介から突如ラップ調に変わるという意表を突いた演出でスタートしました。今月末の職業体験を見据えて、互いの職業を知るといったテーマの青春劇から

和太鼓の演奏を挟んで合唱「福笑い」につながり、オリジナル曲「Be Strong」を歌った後、最後の「できっこないをやらなくちゃ」で会場全体を巻き込んで合唱して盛り上がりました。劇の出演、楽器演奏、ダンス、ラップ、音響照明など、生徒たちがそれぞれの持ち場で活躍しており、個性豊かな80期生の良さが輝く素晴らしい発表だったように思います。



〇3年生

3年生は修学旅行で学んだ平和学習の発表ということで、それまでの盛り上がりとは一線を画したシリアスな雰囲気から始まりました。現在の学生が戦時中にタイムスリップするという劇により平和であることの尊さを訴えてくれていたため、その後の日常の風景の映像やダンスを見ても、これが当たり前ではなく幸せなことだと捉えることができました。そして最後の合唱「SorANJI」も、何気ない日常の幸せをテーマにした楽曲であり、歌詞の言葉一つひとつを噛みしめるような丁寧な歌い方と圧巻の音量、抜群のハーモニーで平和のメッセージを伝えてくれ、会場は大きな感動に包まれました。



〇吹奏楽部～閉会

舞台発表のトリは吹奏楽部の演奏でした。1曲目は今年の吹奏楽コンクールの地区大会で銀賞を取った「三日月の彼方」で、大胆なところと繊細なところが見事に融合した秀逸な演奏でした。続くディズニーのメドレーや「ライラック」は、誰もが知っている曲ということで、タイトルを紹介だけで大きな歓声があがり、ラストの「おジャ魔女カーニバル」では、恒例の教員による飛び入り（ダンスと演奏）もあり大いに盛り上がりました。アンコールの「学園天国」では会場全体で手拍子があり、一体感をもって文化祭のフィナーレを飾ってくれました。

演奏後は生徒会代表が全ての発表についてとても的確な講評をしてくれ、閉会となりました。



【裏に続く】

○展示の部

展示会場には、文化教養部と美術部をはじめ、くすのき学級、理科、美術科、家庭科における作品やレポートと、各学年による展示がありました。生徒たちは昼食後、学年・クラスごとに会場に入り、作品を指さしながら感想を言い合うなど熱心に見学をしていました。

（ここからは当日時間の関係で述べられなかった講評から抜粋して掲載します。今回の文化祭で初めて展示されたものを中心に述べています。）

文化教養部は羊毛で作ったマスコットハウスが可愛らしく、花のリースや卵の殻で作ったフォトフレームもよくできていました。またカレー作りのためにインドについて詳しく調べており、大変興味深い内容でした。

くすのき学級は、舞台発表の「泣いた赤鬼」を大きな貼り絵にしていました。細かい紙をちぎってきれいに貼られており、髪やひげの部分は綿で立体にしているなどの工夫もよかったです。

美術部の作品は今年も色彩豊かな力作ぞろいでした。「熱笑」というスローガンに合わせて、笑顔をいろいろなアプローチで描いていたのが印象的でした。

美術科の作品について、まず1年生は、万博のテーマに合わせて未来社会をイメージした夢の道具を描いていました。「持ち物見つかるボックス」や「ドローン空気清浄機」、「ポジティブ・パタパタ・ペット」、「浸透ジェルシール点滴」、「未来の傘」などは本当に素晴らしい発想で、ぜひ製品化してほしいと思いました。

2年生は来年の本校創立80周年を記念したキャラクターデザインでした。どのキャラクターもとても魅力的で、個人的にお気に入りなのは「かしちゅう」や「かしまる」、「かしにゃん」、「かしわん」でした。また2年生は点描画にも取り組んでおり、「階段の風景」や「トラ」、「ネコ」、「タヌキ」、「浮世絵（神奈川沖浪裏）」は特に目を引く出来でした。あと美術科の作品ではありませんが、学年のめざす「みそしる」をモチーフにした立体立て看板も見事な出来栄でした。

3年生はお菓子のパッケージデザインということで、ポッキーならぬパッキーの箱を作ってくれました。おみくじは実際にひくことができました（私は大吉が出ました）。印象に残ったデザインは「ソルトチョコ味」、「ライチ＆ブルーベリー味」、「クッキー＆クリーム味」、「レモン味」、「ミステリーフレーバー味」、「ソーダ味」と「ハワイの味」で、あと一人による4つの連作も良かったと思います。

同じく3年生は家庭科の課題である「幼児のおやつ」についての調理レポートもありました。弟さんが食べたいということで作ったという「たまごカップケーキ」や「カラメルプリン」、昔お母さんが作ってくれたという「黒糖パンナコッタ」、幼児が喜ぶよう見た目を可愛く仕上げた「ひよこ蒸しパン」、暑い夏でも食べやすい「フルーツポンチゼリー」、小さい子でも食べやすい大きさの「さつまいもドーナツ」、子どもの頃に好きで食べていたという「ミルクプリン」、偏食のこどもにバランスよく栄養をとってもらうための「健康じゃがりこ」など、幼児のことをよく考えて作られていると感心しました。

2年生の「私の植物大図鑑」については、バットの原料となる「トネリコ」や、石にそっくりな珍しい「リトープス」、世界一醜く臭い植物と言われる一方で、世界一背が高い植物というのが面白い「ショクダイオオコンニャク」、英語では「赤ちゃんの青い目」と表現されるほど美しく愛らしい「ネモフィラ」、カンガルーの前足のようなユニーク花を咲かせる「カンガルーポー」、かつては薬として使われていましたが、最近はあまり見なくなった「リンドウ」、葉っぱに触ると閉じてしまうことで有名な「オジギソウ」、平家物語で有名な平敦盛にちなんで名づけられたという「レブンアツモリソウ」など、とても詳しく調べられており勉強になりました。



○あいさつ運動「あいさつクエスト～熱笑への道を求めて～」

9月の中央委員会（生徒会、学年代表、専門委員長による会議）において、体育祭や文化祭をとおして学校が一つになるために、毎日のあいさつを大事にしようという意見がまとまり、9月16日（火）から10月2日（木）の文化祭前日まで、週番の生活委員に加えて中央委員会のメンバーも一緒に校門に立ってあいさつをする運動「あいさつクエスト」に取り組みました。各日の挨拶の状況についてはメンバー1名につき持ち点5点とし、毎日8名（満点40点）で評価していき、終了までに350点以上になることをめざしました。毎朝メッセージボードを手を持ち、大きな声であいさつして、結果についてはお昼の放送で伝えてきました。そして最終日には目標の350点を達成し、晴れて「熱笑充電完了」ととなりました。体育祭・文化祭の成功の背景には、このような活動が下支えとしてあったことを忘れてはならないと思います。



保護者の皆様方におかれましては、平日にもかかわらずたくさんご来校いただき、誠にありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。
※予想以上のご来校があったため椅子が足りなくなり、立ったままご鑑賞いただいた方もおられ大変申し訳ございませんでした。次年度は保護者席を増やすよう引継ぎをしておきます。